

長崎港常盤・出島地区臨港緑地の景観計画*

Landscape Planning for Tokiwa-Dejima Water Front Park in Nagasaki Harbor*

後藤恵之輔**・横松宗治***

By Keinosuke GOTOH**, Muneharu YOKOMATU***

1. はじめに

長崎県は、昭和61年に「アーバンルネサンス2001構想」を策定し、長崎都市戦略としての「コンベンション都市」を目標像とした。長崎港常盤・出島地区には、このコンベンション構想の中核施設の立地が予定されている。

ここに述べる景観計画案は、この地区の臨港緑地、すなわち、シーサイドパークと水辺のプロムナードの計画に当たって、“長崎らしい”景観を形成する手法を提言するものである。

2. 計画地の概要

計画地は、長崎港の東側約10haであり、現在埋め立て工事中である。背後には、出島、グラバー園など観光スポットが多く集積している。

明治の開国期に西洋人によって形成された山手地区、外国人住宅群、中国、欧米各国領事

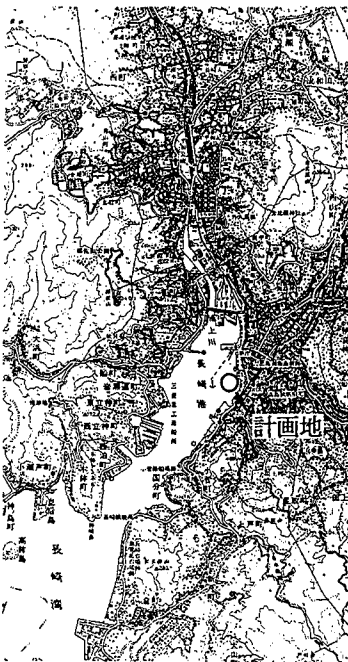


図-1 計画地の位置

* キーワーズ：景観、空間設計、公園・緑地

** 正員、工博、長崎大学工学部社会開発工学科（長崎県長崎市文教町1-14, TEL 0958-47-1111, Fax 0958-48-3624）

*** 正員、工修、㈱日本設計（東京都新宿区西新宿2-1-1, TEL 03-3344-2311, Fax 03-5325-8957）

館、外国銀行などが立地した大浦海岸通りに接し、長崎の最も華やかな時期の象徴ともいえる出島岸壁を計画地内に取り込んでいる（図-1）。

計画地中央に、館内地区の雨水放流水路が施設されるが、これが後に述べる「水辺のプロムナード」としても多様な利用に供されるものである。

港湾計画によれば、同地区の土地利用は、(1) コンベンションセンター、ホテル、商業施設などの建築用地、(2)大規模な屋外イベントと市民の日常の公園としての臨港緑地によって構成される。

3. 計画のプロセス

本計画における景観計画のプロセスを図-2に示す。

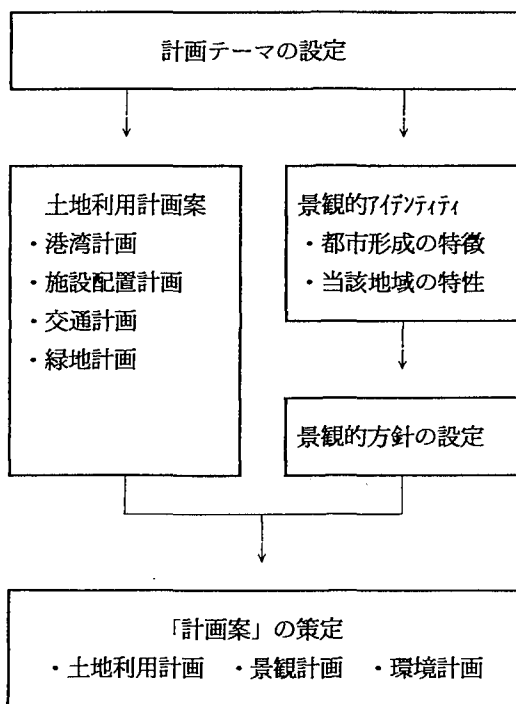


図-2 景観計画のプロセス

4. 計画のテーマ

上記の特徴をもつ立地であるため、本計画のテーマを、以下のように設定し、提案する。

(1) 歴史の記憶を呼び戻す …… 長崎港の象徴である出島岸壁、大浦海岸通りに刻まれた歴史の連続性をさらに豊かに引き継いでいく利用計画、デザインであること。

(2) 海辺、港街の賑わいをつくる …… 周辺に立地する観光スポットを、本計画地を通過するネットワークとし、さらに商業施設を配することによって賑わいを創造する。

(3) 「海」をとりもどす …… 長崎港の周囲は、ほぼ施設群によって占められ、市民が海に触れることは困難である。湾岸に創りだされる唯一のオープンスペースは、広場としての利用に留まらず、「親水空間」としても極めて重要な役割を持っている。

(4) 海から、陸からの景観 …… 長崎港の水域と、これを取り囲む陸域斜面地は、「円形劇場」状の景観を構成し、本計画地はその中心に位置する。また、海路より長崎港に進入すると、ここでも本地区は針路の軸上に位置することになる。

従って、本計画地は、「長崎大景観」を形成する、最も重要なファクターとしての景観的な役割を持つ。

5. 計画地の景観的アイデンティティの認識

(1) 都市形成の特徴 …… 16世紀半ばに開港されて以来、キリシタンの時代、出島・鎖国時代、中国人の居留地の形成期、明治開国期の西洋人居留地の形成期、近代重工業の発展期、外国航路特に上海航路の繁栄時期、そして原爆による壊滅からの復興。それぞれの時期に、特徴ある町並みと景観が形成されてきた。

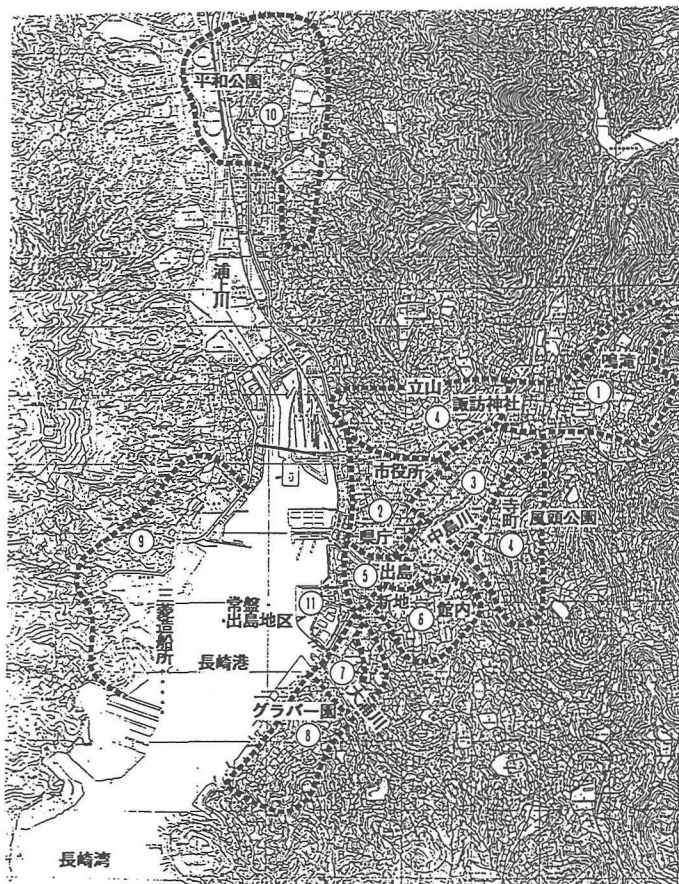


図-3 景観エリア

(2) 各エリアの景観的特徴 (図-3)

長崎市「都市景観資源図」¹⁾を基礎に、以下のエリア区分を行った。

- ① 鳴滝、蛍茶屋エリア…谷筋と、かつての入江、現在の中島川上流の景観。
- ② 市役所から県庁にいたる尾根筋エリア…長崎発祥の岬、「内町」の街並み。
- ③ 中島川兩岸エリア…中島川と石橋群。流路に直交する門前町の街区。
- ④ 風頭・寺町、西坂・諏訪エリア…山麓の寺町、斜面から平地への門前町。
- ⑤ 出島および周辺エリア…②エリアの先端の砂州に造成された人工島と周辺。
- ⑥ 新地・館内・丸山エリア…新地は埋め立て。館内丸山は密度の高い住宅地。
- ⑦ 大浦エリア…幕末に埋め立て。外国商社、領事館等ルネサンス様式の外観。
- ⑧ 東・南山手エリア…港を望む斜面地の西洋人居留地。
- ⑨ 飽ノ浦エリア…三菱造船所の町。
- ⑩ 平和公園エリア…平和公園と浦上天主堂の丘。区画整理された住宅地。
- ⑪ 常盤・出島エリア…90年代末の埋め立て。本計画地。

(3) 本計画地区の景観の方針の提言 …… 本計画地は、景観エリア⑤、⑦に接している。両エリアとも17～19世紀に埋め立てられた。本地区の土地利用は、主に大型の公共施設に向けられるため、⑦大浦エリアと一連の景観を形成する。また水際線には、大型客船の岸壁が設けられるため、かつての出島岸壁を彷彿とさせるであろう。

本計画地区の景観の方針を以下のように提言する。

- ・地域のアイデンティを明確にするため、明治初年に都市形成された「大浦」「常盤・出島」エリアの建築、都市の景観を受け継ぐ。
- ・長崎港を囲む港湾施設群の中心に位置し、港湾景観の主要な要素となるため、“港らしさ”を表現する施設景観でなければならない。

景観の基本的な方針は、以下の施設デザインに反映する(図-4)。

(1) 地区を横断する3か所の水路…護岸のデザインは、19世紀半ばに建設された大浦海岸護岸の“材質感と構築法”に倣う(写真-1、図-5、6)。

(2) 水路に架かる8か所の橋梁…本地区周辺では、近代初期に鉄橋が多く建設された。本計画の大浦海岸通り側の6橋は、19世紀後半の鉄橋の景観に倣ったデザインとする(写真-2、図-7、8)。

(3) 建築群…大浦海岸通りに並んだ19世紀の公共建築群に倣い、“様式性および材料=レンガの素材感”を建築景観の基本にする(写真-1)。

近代初期の大浦海岸護岸および鉄橋については、岡林の調査²⁾を基礎にした。

6. 計画案

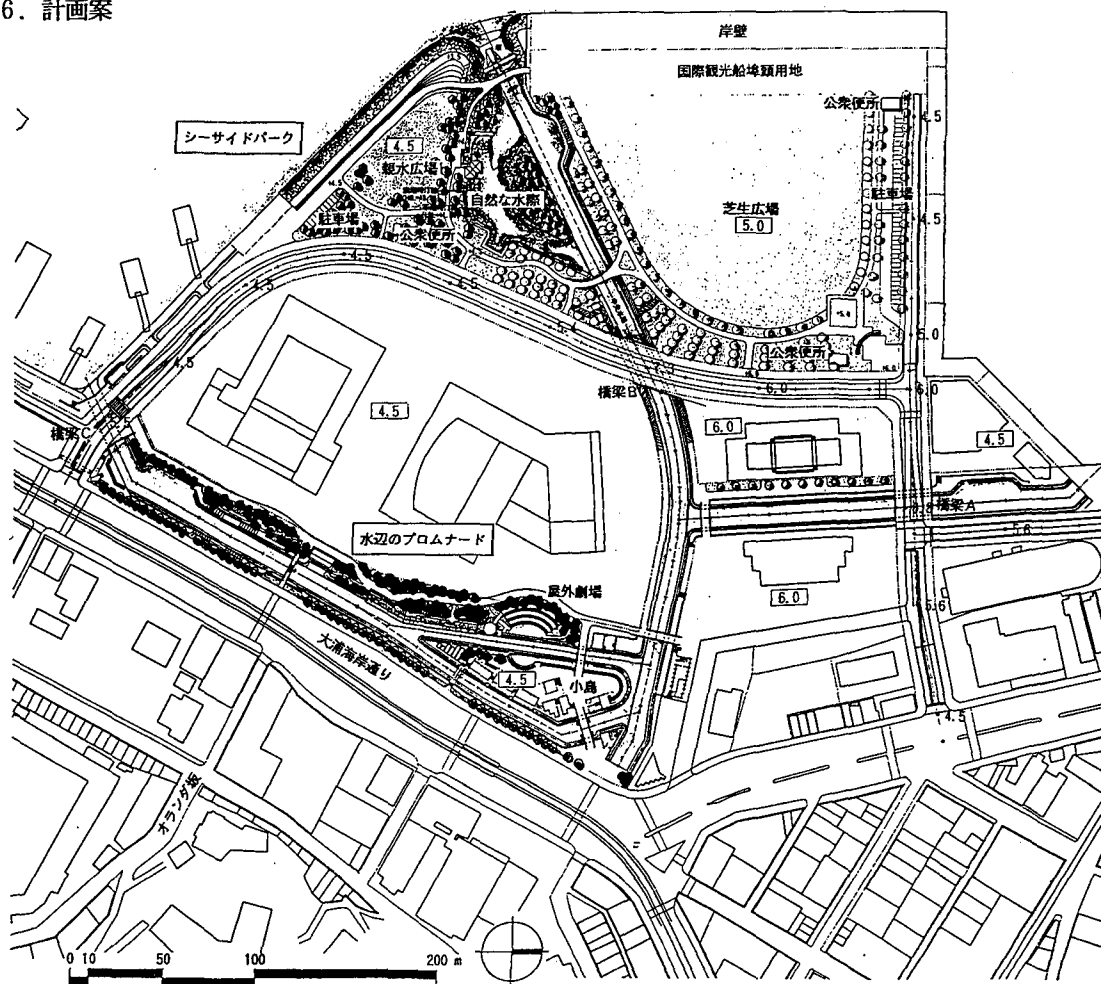


図-4 臨港緑地全体計画

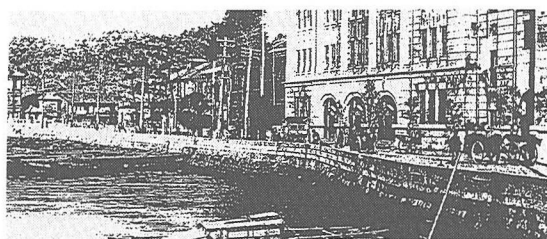


写真-1 1920年代の大浦海岸通り

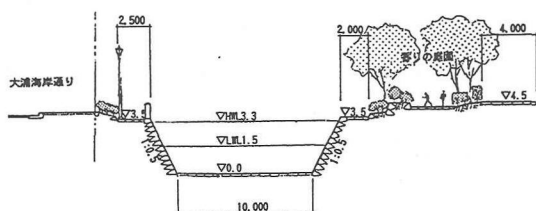


図-5 水路の断面図(1)

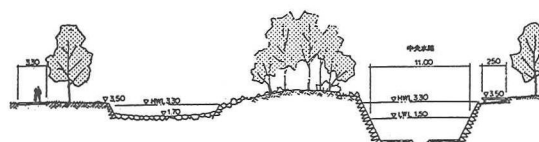


図-6 水路の断面図(2)

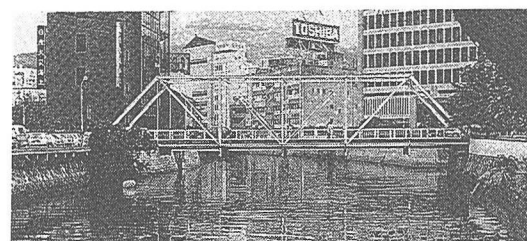


写真-2 現存する出島橋

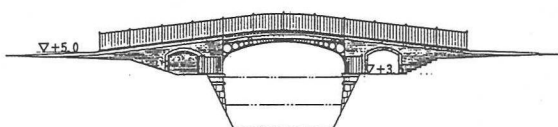


図-7 橋梁の計画案(1)

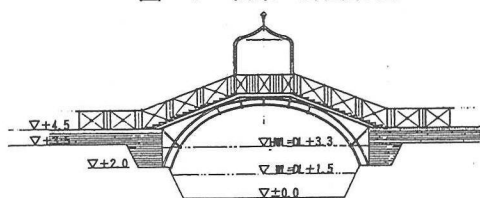


図-8 橋梁の計画案(2)

7. 環境計画における主な項目

水環境、生態系の保全等の環境計画は、直接的には「景観計画」の対象ではないが、長期的には、景観を支える基盤として重要な要素である。本計画では、特に水路の水質の維持と、生態系の回復、保全を課題とした。

(1) 水路の水質の保全…水質の目標値を「水辺での水遊び」程度とし、「COD 5ppm」とする。長崎県臨海開発局³⁾および後藤ら⁴⁾の調査によれば、周辺海域の水質は、COD 2-3ppm程度である。水路内の海水は、潮汐による自然交換を基本とするが、夏期など上記の水質管理限界を上回った場合、水門の操作等により強制的に交換し、水質を維持する。

(2) 生物環境の保全…港湾区域及びその周辺は、生態的に貧困な環境になりがちである。本計画の臨港緑地においては、積極的な生物環境の創造を目標とし、下記の提言を行う。

- ・「親水」を目的とした池を、多種の生物相を許容する多様な形態の護岸とする。
- ・人的圧力を避けられる「生物の逃避場」を設ける（生息拠点）。
- ・周辺の緑地との連続を図り、生物の移動を容易にする（ビオコリドー）。

8. おわりに

本計画は、長崎県臨海開発局を事務局とし、検討委員会（委員長：後藤恵之輔）によって平成4年度より協議された。ここに発表する提言は、後藤・横松によるものであり、必ずしも同検討委員会の報告とは一致しない。しかしながら、この提言は、その多くを委員各位、長崎県担当者の貴重な示唆によっている。ここに心からの感謝を記する次第である。

参考文献

- 1) 長崎市：都市景観資源図(1992)
- 2) 岡林隆敏：長崎近代土木史野外博物館(1992)
- 3) 長崎県臨海開発局：長崎港港湾計画調査報告書(1990)
- 4) 後藤恵之輔、全炳徳、中村武弘：衛星リモートセンシングによる長崎港の水質状況調査、海洋開発論文集, Vol. 10, pp. 113-118, (1994, 6)